

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名		就労準備型放課後等デイサービス トータスミドル				公表日	2026年 4月 15日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	法令の基準に基づき運営を行っている。多機能型の利点を生かして、空いた時間に他事業所のスペースを有効活用している。	多機能のため、隣と区分けしていても利用児童が他事業所の利用者さんと玄関等で一緒になることがある。その際は職員が見守り、他者との付き合い方の良い機会になるよう支援している。		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	法令の基準に基づき職員を配置している。また、児童・福祉分野5年以上職員が7割を超えている。利用児童の状態に応じて適した職員が個別対応するなど工夫している。また、児童・福祉分野専門職をより配置できるよう法人全体で働きやすい職場作りを取り組んでいる。				
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	視覚的にわかりやすい掲示物の作成・掲示や玄関から室内までフルフラットなユニバーサルデザインになっている。	階段に手すりはあるが2階に行く際、車いすは対応できていない。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日職員全員で清掃を行い、心地よく衛生的な空間を提供できるよう努力している。また、活動内容に合わせて机や椅子を動かしてスペースを確保している。				
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	相談室、作業室などを個別対応に使用し、クールダウンスペースを確保している。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	情報共有ノートの活用、毎日の朝礼での情報共有、月1回の職員会議、都度の個別支援計画会議など、必要に応じてこまめに打ち合わせを行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3	保護者向け評価を実施している。	保護者向け評価が、どのように業務改善につながっているのか、明確にし様々な業務改善を行いより良い支援を目指す。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・普段から職員同士の関係性が良好で、話しやすい環境。業務改善も取り入れてもらえる。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6		第三者による外部評価を検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	5	職員が個人で研修を受講している。また、わからないことは職員同士で教えあったり、調べるようにしている。	職員全体が研修を受けられるように今後整備を検討していく。		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	ホームページに掲載してある。	支援プログラムを元に充実した活動を取り組んでいく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	職員全員で毎日の活動を通してアセスメントを取っている。それらを情報共有し、児童発達支援管理責任者を中心に放課後等デイサービス計画を立てている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	計画立案に際して会議を行ったり、スプレッドシートを活用して職員が意見出来るようになっている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	出来上がった計画書に目を通し、職員全員がサインを入れている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	インフォーマルアセスメントについては職員全員が子供たちをよく見てできている。	標準化されたアセスメントツールがない。今後、作成を検討していく。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	3	こどもに必要な支援内容になるよう、職員同士で意見を出し合っている。	現在の計画書のフォーマットの改善をしていく。また、必要に応じて「家族支援」「移行支援」「地域支援」に力を入れていく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	普段から心理的安全性のある職場なので、チームで立案することが出来ている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	普段から心理的安全性のある職場なので、チームで立案することが出来ている。			

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	こどもの状況をよく見極めて集団活動が難しい場合は、個別活動に切り替えている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	送迎、支援内容、活動内容などその日に必要な情報共有を行っている。職員間で連絡ツールを活用し、媒体に応じた情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	支援終了後は時間的に打ち合わせが難しいため、ノートに書き込み情報共有し、次の日の朝礼で再度確認を行っている。	ノートに共有事項を記載することを徹底する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	できている。職員間で記録以外の情報共有も積極的に行い、利用児の小さな変化を逃さず共有し、支援につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	必要に応じて計画の変更を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	2	「自立支援活動」「生活能力向上活動」「創作・表現活動」「地域交流活動」すべてが活動に落とし込まれている。特に「地域交流」は職場見学として地域の会社を見学させてもらっている。	地域交流の機会は職場見学がメインのため、ほかの交流の機会も考えていく必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	2	支援の言葉がけで、選択肢の提示や決定までの待つなど、子供が自ら自己決定できるよう工夫している。	選択肢の少ない活動もあるので、そのような活動における自己決定をどうして行くのかは今後の課題。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者を中心に、サービス担当者会議に参画している。	セルフプランの利用児を今後どのように相談支援専門員に繋げていくのか、検討していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	6	学校とは連携できるよう、送迎時など担任の先生に利用児の様子を聞くことを心がけている。	今後は情報の整理とともに、必要な連携を模索する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	送迎の変更など、学校にはこまめに連絡を入れるようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5	同法人内の児童発達支援利用者とは、しっかりと情報共有が出来ている。	対象児が高学年以上のため保育所等の連携がほとんどないのが現状だが、今後は情報として保護者より過去の利用状況や様子を聞き取るようにしたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4	必要に応じて口頭で利用児の様子を共有している。	今までは口頭にて情報提供していたが、今後は「情報提供シート」の作成を検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	6		ほとんど機会がないため、今後検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		ほとんど機会がないため、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	7		今後参加を検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時に日々の活動の様子を伝えたり、ご家庭のお話を聞いたりして相互理解に努めている。また、計画のモニタリングの際にご家庭の様子を時間をかけて聞き取っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7		家族向けの講座や相談会の開催を検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	管理責任者を中心に、契約時に説明を行っている。	今後、全職員が説明を担当できるようにマニュアル作成を検討していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	2	年に2回、利用児と面談の機会を設けている。保護者には計画書のモニタリングを利用して意向の確認を行っている。	今後、その子の障害の程度に応じてわかりやすく説明をしていくよう、改善していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	児童発達支援管理責任者を中心に、説明を行いサインをもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	送迎時に家族から話を聞くようにしている。	モニタリング以外でも相談を受け付けていることを今後周知していく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7		コロナ禍以降、保護者同士の交流の機会がない。今後同じ障害、年齢が近いなどグループを作って茶話会などを検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	何か問題や苦情があった際は、管理員・児童発達支援管理責任者に伝え、職員間で共有し、迅速に対応している。	苦情の対応はできていますが、今後苦情があった場合のマニュアルシートの整備を検討していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	Instagramで週に2回、活動の様子を発信している。送迎時にお会いできなかった保護者にはLINEにて個別に様子を伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	視覚的にわかりやすい情報提供を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	0	7		家族への周知が不十分。今後周知を徹底する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2		BCPの職員への周知を今後徹底していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	2		てんかん発作等の子どもの状況に加え、予防接種や服薬状況の把握をできるよう徹底していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		基本情報でアレルギーなどの情報をもとに対応しているが、モニタリングなどでその都度最新のものに対応していく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2		職員間での理解をさらに深めていくために今後も検討していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4		職員間での理解をさらに深めていくために今後も検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1		共有できているが、順を追って検討していく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	3		職員間での理解をさらに深めていくために今後も検討していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	5		事前に説明し了解を得ているが、具体的な記載については今後も位置付けていくよう検討していく。	